MAINICHI
毎日新聞
2月27日(木)
2025年(令和7年)
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

ものつくり大院生調査 日光東照宮陽明門と類似

諏訪神社にも「逆さ柱」

わざと未完にし魔よけ

近世特有の彫刻装飾を施した希少な寺社建築として2016年に県有形文化財に指定された熊谷市上新田の諏訪神社本殿に、日光東照宮陽明門に採用された魔よけの「逆さ柱」と類似する手法が施されていることが、ものつくり大学（行田市）横山晋一教授の研究室の調査で明らかになった。【中山信】

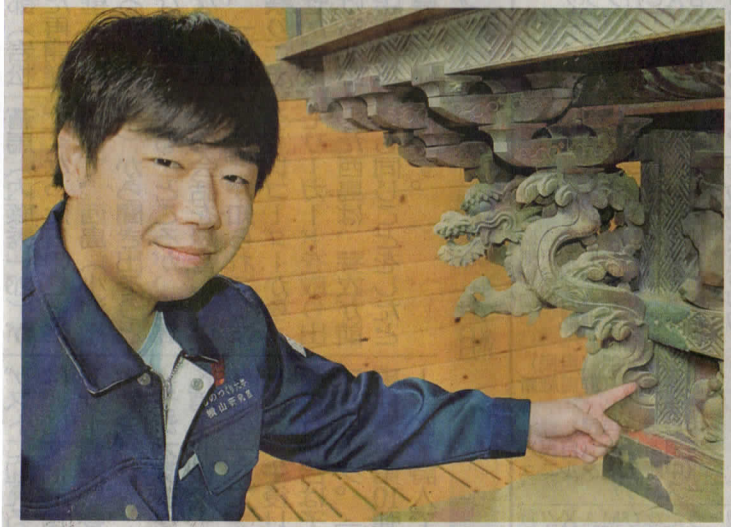
諏訪神社本殿は、地域の村役人を代々務めた柴田家によって創建された。江戸時代中期の1746年、利根川大洪水の影響で約10年間中断した「歓喜院聖天堂」（熊谷市妻沼）＝国宝＝造営工事の再開を待つ名工たちにより建てられたことで知られる。

正面の左右約1・5メートル、奥行き約2・3メートルの広さがあり、「一間社流造」の構造。本殿を支える4本の柱の下部は8角形で、8面のうち5面に幾何学模様の地紋彫りが施されている。入子菱繋文と沙綾形文が交互に配置されたもので、外から一番よく見える手前側に入子菱繋文を配置している。ところが北西の1本だけは配置が逆となり、手前に沙綾形文が施されている。本殿を約2年間、調査してきた横山研究室の大学院生・星辰之介さん(24)が発見した。

江戸時代初期に建立された日光東照宮陽明門は12本の柱のうち1本だけ模様を逆さまにしてあることが知られている。星さんによると、「建物は完成と同時に崩壊が始まる」という伝承を逆手にとり、わざと一部の柱を未完成の状態にすることで災いを避ける魔よけのための対応だという。

諏訪神社本殿の柱も間違って施工したわけではなく、大工の棟梁だった内田清八郎が意図して行ったとみられるという。内田は歓喜院聖天堂の大工棟梁を担った林兵庫正清の門弟で、林は日光東照宮の工事を指揮した棟梁らの流れをくんでいる。内田も陽明門の思想を受け継いでいたと考えられ、完成した本殿が長く維持・保存されることを願い、陽明門と類似した手法を本殿に施したと判断した。

調査の成果は今後刊行される研究報告書に盛り込まれる。本殿は5月18日に年1回の一般公開を行う。問い合わせは諏訪神社宮司の小柴捷子さん（048・536・1168）。



柱の下の部分で文様の左右の配置をあえて逆にした「逆さ柱」の部分を指さす星辰之介さん＝熊谷市上新田の諏訪神社本殿で